

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193100476		
法人名	株式会社 オレンジサポート		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	北海道上川郡東神楽町北1条東2丁目11番5号		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0193100476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29年 3月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひばりでは、食事・イベント(ひばりまつり・海へのドライブ・クリスマス会等)・家族との交流に力を入れて取り組んでいます。また、ひばり通信やホームページによる開示には力を入れて取り組んでいます。ご家族様へのサービスに関して、代行サービス等のサービスも充実させています。ご利用者様が安心して生活していただけるとともにご家族様の負担軽減・安心の提供に全力を尽くしています。さらには、医療機関との連携にも力を入れ、歯科医・内科医・精神科医の往診も定期的にあり、常に医師と相談できる環境を整えています。これからは職員の力を最大限発揮できる職場づくりとスキルアップするため、定期的に研修などを実施し、ご利用者様ひとりひとりが主役になっていただけるケアを目指していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひばりは、同じ敷地内に法人の居宅介護支援事業所や訪問介護、訪問看護事業所がある有料老人ホームに隣接しています。平屋建て一部中二階の建物で、天井が高くゆったり過ごせる建物で、浴室には入浴の楽しみを継続できるシャワードバスがあり、職員は羞恥心にも配慮し、安心して入浴を楽しめるようにしています。日常的な暮らしへの満足度を高める取り組みと共に、行事などが充実しています。行事の様子を含め情報公開にも取り組んでおりホームページに事業所便りを掲載しています。また、家族には行事ごとのDVDを作成し、利用者の様子を伝えています。事業所では重度化や終末期支援にも取り組んでおり、法人内訪問看護師の指導を受けてスキルアップに取り組み、連携もスムーズに行っています。寝たきりの状態になっても共に暮らすことで利用者に安心を伝え、看取りもみんなの声が聞こえるところで行うなど、どんな状況でも利用者を温かく支えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」傾聴・「やさしく」受容・「ともに」共感を独自の理念として、スタッフが常に見ることのできる場所に掲示し、ネームプレートの裏面に記載し、共有しながら日々の実践につなげている。	設立時からの理念を事業所内に掲示しています。職員は利用者を家族と同じように思い、楽しいことや悲しいことを共有し一緒に生活を送っています。日々の支援の中で悩んだ時に理念に立ち返り、ケアの方向性について検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	暖かい時期には、できる限り屋外に出かけ、地域の方々と関わる機会を設けている。また、ひばり最大のイベントである「ひばりまつり」では、大勢の地域の方々に参加して下さっている。そのことで事業所自体が地域の一人として交流している。	町内会の行事に職員が参加し、事業所と地域の橋渡しをしています。法人の祭りの他、事業所に隣接した高齢者施設の交流スペースを地域に開放しており、ボランティアのソバ打ちや職人が握った寿司を楽しむなど利用者との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんからの相談が多数あり、その相談に随時対応させていただいている(認知症高齢者の相談をはじめ、機能訓練をして在宅復帰を目指している方の相談等)。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	現場の状況を見ていただくために、イベント(ひばりまつり、クリスマス会)の際に開催している。その際に実際に見ていただいた中のご意見をいただき、またご利用者様に触れ合っていたことで当施設がどういう所であるか知っていただく機会としています	今年度は2回開催しています。行事の後に開催しており、家族に声を掛けていますが参加は少ない状況となっています。議事録は事業所に保管していますが家族への送付は行っていません。	会議の回数を増やし、行政の参加を呼び掛けるなど、事業所の透明性の確保や運営のモニター役としての運営推進会議の意義を踏まえ、開催の目的と枠組みを明確にしていくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的大雪広域連合に訪問し、情報収集・相談等を行っている。また、わからないことがあれば、町役場をはじめ、大雪広域連合に連絡し、常に解決している。	介護保険の保険者である大雪広域連合と、事業所所在地の役場と連携を取っています。定期的に窓口を訪問し、事業所の運営状況を報告しています。町が窓口となり、職員の腰痛予防や職場環境の向上のため介護ロボットの導入を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束のリスクを理解しており、夜勤帯以外は玄関等の施錠はしていない。また、落ち着いた様子のご利用者様には常にスタッフが付き添い、見守り、安心して過ごせるようにケアさせていただいている。	法人全体で身体拘束の排除に取り組んでいます。毎年研修を行い、マニュアルを整備して職員の理解を促しています。物理的な拘束だけでなく、より良い支援を目指し利用者の尊厳を守るため、職員一人ひとりが自分の個性を踏まえた対応を心掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、積極的に研修会に参加し、学ぶ機会にしている。その知識をもとに随時対応、指導している。また、研修会参加後は、ミーティングで研修内容を報告し、スタッフに周知・徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関して理解している。その知識をもとに随時対応、指導している。また、ミーティングでスタッフに周知・徹底している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の施設見学を重視し、十分な理解と納得をしていただいた上で入居していただくようにしている。解約時にはご本人様・ご家族様との話し合いを十分にいき、相互理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた際に、意見・要望・相談を随時伺い、サービス向上に努め、運営に反映させている。	家族の来訪時に個別にくみ取っています。また、全家族を対象とし毎年家族会を開催し、運営状況や事故防止の取り組み、職員紹介などを行っています。家族の要望から恒例行事の海への行楽を継続しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時に、意見・相談を受け、対応している。また月1回のミーティング時に運営上のトラブル回避のため、現状の確認・意見等を聞き入れ、反映できるものは反映している。	法人全体の会議や事業所ごとの会議があり、役員も日常的に事業所を訪れ職員や利用者、家族からの意見を聞いています。職員の資格取得への支援など、向上心や意欲をもって勤務できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表はじめ取締役、施設長、管理者が交代で出勤し、スタッフの要望にしっかりと耳を傾け、やりがいのある職場環境づくりに努めている。その他個人的な相談のあるスタッフに関しては、随時、相談を受け、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や講演会に随時参加してもらい、その内容を定期的にミーティングでスタッフにフィードバックすることでスキルアップを目指している。また、スタッフひとりひとりがスキルアップできるように改善点があれば、その場で指導するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	現在、他事業所との交流機会があれば積極的に参加している。また、他事業所の勉強会や研修にも参加させていただくこともある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時にご本人様の希望を傾聴し、安心の提供と信頼関係の構築に努めている。また、傾聴するだけでなく、希望に添えるように努力することで、さらなる信頼の確保につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談時にご家族様の希望を伺うことで、安心を提供し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談時にアセスメントを実施し、必要な支援を見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフができるだけ利用者様の近くに寄り添い、日常的な会話、昔のお話を伺ったりし、知識等を教えていただく機会を設けることでともに暮らしているという関係性を作り、ご本人様にできることはさせていただくことで自信や生きがいを持っていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出やイベント時にはご家族様に協力していただけるように要請し、参加していただくことでご家族様にもご利用者様をともに支えているという関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から受診されていた医療機関を受診するなどし、以前生活されていた地域との関わりを途切れないようにしている。また、ご家族様だけではなく、知人や友人の面会も歓迎し、馴染みの人との関係性を維持できるようにしている。	利用者の家族や知人の来訪時には利用者の居室などで気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮しています。また、利用者が会いたい人や行きたい場所がある場合は家族にも伝え連絡をとってもらい希望が叶うようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にスタッフが閉じこもりがちなご利用者様には声かけをし、ホールなどで他者との交流ができる機会を多く設けるようにしている。また、会話を楽しんでいただけるようにご利用者様同士の会話の橋渡しをするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者様に関しても医療機関等に出向いてのフォローや情報提供に努めている。また、施設を探されている時には積極的に支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時情報収集をし、ご本人様の希望や意見を傾聴し、改善等に努めている。また、ご本人様からの情報収集が困難な場合には、ご家族様からの情報収集を行うことで、ご利用者様の希望や意向の把握に努めている。	入居時の希望は本人と家族から聴取しています。利用者の生活歴を把握し、習慣や価値観を尊重した暮らしが継続できるようにしています。傾聴と共感の理念に基づき、職員は利用者の言葉に耳を傾け支援に反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他施設や医療機関を利用されていた方にはその機関から情報提供していただき、利用されていない方に関してはご家族様から情報収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回のアセスメント時に今までの生活について、ご本人様、ご家族様、以前利用されていた施設などから情報収集している。また、日常のケアの中で随時、状態を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様との会話から希望や意向を伺い、申し送りや引き継ぎノートを活用し、チーム内での意見交換を随時行っている。また、定期的にモニタリングし、それらを介護計画に反映することで現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は3カ月ごとに見直ししています。利用者のその時必要な支援と状況把握のため、目標の立案には介護職員からの情報を重視しています。計画は現場で見いだされたニーズに基づいており、ケアマネジメントへの参加意識にも繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ご利用者様毎に日常の様子を介護記録として残している。ケアさせていただく際にはスタッフがその記録を把握した上で実践している。また、介護計画のモニタリングや支援経過としても記録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様との対話で生じたニーズに対しては、既存のサービスにとらわれず、送迎など施設でできることは対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を把握し、連携を図るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診や利用前から利用されていた医療機関を受診し、随時、結果をご家族様に報告し、納得を図っている。また、協力医でなかった医療機関に関しては協力医になっていただくよう働きかけしている。	入居前のかかりつけ医の受診はもちろん、往診医を複数確保しており、利用者の希望に合わせて選択できるようにしています。利用者の安心には医療機関との連携も欠かせないものとし、医療機関との関係作りに取り組んでいます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を図っている訪問看護事業所と相談をし、主治医の指示を受けている。または、直接主治医に連絡をし、指示を仰いでいる。緊急時には、医師に連絡をし、受け入れのできる医療機関をあらかじめ見つけていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった際には、情報提供書を医療機関に渡すことでスムーズに医療が受けられるように努めている。また、頻りに医療機関を訪れ、状況を伺い、随時対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	独自で重度化対応指針を作成し、安心して生活ができるように努めている。ターミナルケアに関してもご家族様と相談しながら実践している。	家族会でも看取りについての事業所の取り組みを伝え、全体の意見や家族個別の意向を把握しています。医療との連携に取り組んでおり、職員は看護師等との協働の中からも重度化や終末期を見据えスキルアップにつなげています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が救命講習を受け、事故発生時に万全な状態を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災や風水害などに関する避難訓練を実施している。スタッフには防災マニュアルを作成し、対応方法の周知徹底を図っている。また、災害時に備え、他施設との連携を図り、災害に応じた避難場所の確保に努めている。	消防が立ち合い、年2回職員全員参加で避難訓練を行っています。水害の場合は隣接する同法人の施設への避難や、他法人の施設とも避難受け入れの申し入れを行っています。備蓄を行い、家族会でも取り組み等を周知していく予定です。	法人内訓練や他法人との連携などにも着手しています。しかし、訓練には地域からの参加がありません。大規模災害時には地域の助け合いも大きな力となります。訓練などを通じ協力関係を作っていくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様ひとりひとりの人格を尊重し、ケアにあたっては、まだまだ十分といえないため、今後も継続したスタッフのスキルアップが必要と考えている。	利用者を尊重する姿勢を理念にも掲げ、認知症によって利用者が感じている時代や気持ちに寄り添い、心と体の状況を見極めた支援を行っています。入居前からの習慣や嗜好もできるだけ継続できるようにし、それぞれの価値観について理解するよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場面場面でご利用者様が選択できるように常に複数の選択肢を用意し、ご利用者様自身に決定していただけるようにしている。また、ご利用者様の思いや希望に関して日常生活の中で伺ったり、上手く伝えられない方に関しては表情で判断したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	できる限りご利用者様の希望を伺い、その方のペースに合わせてケアさせていただいているが、集団生活であるため、十分とはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の要望に常に耳を傾け、化粧品などご利用者様が希望されているものを探し、購入して使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には特に力を入れ、ご利用者様の好きな食べ物を伺い、提供するようにし、ご利用者様の状態に合わせた形態で提供し、スタッフも一緒に食事させていたいただいている。また、食事が取れず、点滴等が必要な場合は主治医の指示のもと、看護師が随時対応している。	利用者の希望に沿った食事を提供しており、楽しく食べられるように工夫しています。隣接する施設に出かけ蕎麦や寿司のボランティアによる本格的な食事など、変化を付けています。手作りのヨーグルトの提供など、自然な便通にも配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算はしていないが、食事や水分の摂取量を把握し、脱水や低栄養にならないように注意している。また、嚥下能力が低下しているご利用者様に対しては水分にとろみをつけるなど誤嚥されないような工夫を随時している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態を随時確認している。また、必要に応じて協力歯科医に往診していただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排せつを基本とし、リハビリパンツを使用されているご利用者様でも声かけをし、トイレ誘導することでトイレでの排せつ習慣の維持に努めている。また、立位を保てないご利用者様に対しても複数のスタッフが対応し、トイレ誘導している。	排泄を生活動作全体から考え、立ち上がり、歩行など一連の動きを含めてアセスメントし、トイレでの排泄の自立に繋げています。オムツなどの使い方の研修も実施し、適切な用品の使用で紙パンツから布パンツへ変更となった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日把握している。その中で便秘傾向のあるご利用者様に対しては、乳製品等を飲んでいただくなどの工夫をしたり、腹部マッサージをしたりすることでスムーズに排せつしていただけるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴日は決まっているが、ご利用者様の体調や希望に合わせて入浴していただいている。浴槽に入っていただくことを基本とし、立位の保てないご利用者様に対しては複数のスタッフで対応している。また、シャワードバスを設置し、入浴日以外にも利用していただいている。	入浴支援に力を入れており、午後の時間帯で湯船に浸かってリラックスできるようにしています。安心して入浴が楽しめるよう、浴槽に浸かると同じ温浴効果があるシャワーも導入しています。タオルで体を隠すなど利用者の羞恥心に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り睡眠導入剤を使用せずに、眠れない時には、温かい飲み物を提供するなど工夫している。また日中にも短い時間の睡眠を必要に応じてしていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬の内容の把握や管理を行い、わからないことは主治医に伺い、指示をいただいている。また、内服薬で副作用等の変化があった場合には主治医に連絡し、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外が暖かい時期にはできる限り外気浴等を行い、気分転換を図っている。また、生活の中でご利用者様に役割を持っていただけるようにケアさせていた		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出困難なご利用者様もいるが、車椅子を利用するなどして、買い物に出かけたり、散歩したりとご利用者様の希望にできる限り答えるように努めている。また、ご利用者様から「海が見たい」と希望があり、バスを借り、留萌まで年に1回外出している。	外気浴や隣接する法人施設へ遊びに出かけるなど、日常の外出で閉じこもりがちにならないようにしています。利用者の体力に合わせた外出の企画や恒例となっている海への行事には家族にも声を掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は施設で管理しているが、外出時はご自分で会計することができるご利用者様に関してはご自分でしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や郵便に関してはご利用者様の希望に沿って行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては、色々な装飾をし、明るく開放的で落ち着いた空間づくりに努め、色彩を取り入れることでメンタル面への配慮にも力を入れている。また、ご利用者様が迷ったり、不安にならないように好みの色の居室を選んでいただき、生活していただくように努めている。	共用スペースはユニットごとにテーマカラーが決められカラフルで統一感があります。天井が高く開放的な造りでエアコンも完備しています。居間には大型テレビや雑誌や本をはじめ、手芸やレクリエーションの道具などがあり、日中も思い思いに過ごすことができるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは全員がゆっくり過ごせるように広い空間になっている。ソファやテーブルを配置しており、ご利用者様が思い思いのひとときを過ごしていただけるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で今まで使用されていた家具や電化製品を使用していただくことで安心した生活を送っていただけるようにしている。実際に何をどう配置するかはご家族様、ご利用者様にお任せし、自由に使っていただいている。	居室はそれぞれ壁紙やドアの色が異なります。利用者はそれぞれ日常で使うものや使い慣れた家具を持ち込んでいます。家具の配置は利用者の希望ですが、身体状況に合わせて危険がないよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に日常生活動作を把握し、ご利用者様ができることはご自分でしていただくようにケアさせていた		